

堆肥入り肥料広域流通

熊本・JA菊池 偏在解消へ全農と

西日本有数の畜産地帯である熊本県のJA菊池は、堆肥入り複合肥料を開発し、JA全農などと広域流通に乗り出す。6日のお披露目会で発表した。慣行と比べ施肥コストを約10%削減でき、環境保全型農業にもつながる。JA管内の牛ふん堆肥を使い、一部は機械で散布しやすい丸形のペレットとした。5月1日に発売する予定。

堆肥は全国的に畜産地帯に偏在しており、ペレット化などによる広域流通は利用拡大につながる。

JA管内では以前から畜産堆肥の利用先確保が課題。開発した肥料は県内JAで販売す

る他、全農の協力で、九州や中国地方など西日本の堆肥不足地域とマッチングしての販売を視野に入れる。全農によると堆肥入り肥料の県外流通は珍しい。商品名は「エコぷらす」。化学肥料に堆肥

を20〜40%混ぜ、対象品目別に成分を調節した4種類を発売する。初年は200〜300トを生産予定とする。JAの試算では、春スイカで「エコぷらす」を使った場合、10ア当たり肥料代は3万

7972円で、2023年春肥価格での慣行施肥(同4万3912円)と比べ同5940円(14%)減らせる。堆肥による土づくり効果もあり、JAの三角修組合長は「県の環境保全型農業の一翼を担えば最高の喜び」と

力を込める。JAは以前から堆肥ペレットを製造し、ノウハウを生かして肥料メーカーの片倉コープアグリなどと開発した。丸形で、従来の長細いペレット肥料と比べて機械散布時に目詰まりしにくい。JAは管内の米麦や野菜、花きなどで実証試験を実施し、順調な生育を見せている。

(岩瀬繁信)



開発した「エコぷらす」を抱える三角組合長⑤と生産者(6日、熊本県合志市で)